

令和5年度 奈良県立奈良南高等学校 学校評価総括表

【高等学校用】

令和5年度	令和5年度（中期計画2年目）
本校の使命（スクール・ミッション）	地域とともにある学校づくりを推進し、保護者や地域住民等が参画することにより、信頼される「魅力ある学校づくり」に努めます。また、様々な教育活動を通して人権尊重の精神をもち、社会に貢献する自立した人材を育成します。 普通科・情報科学科・総合学科・専攻科を有する高等学校として奈良県・地域社会のニーズに応えています。
令和5年度重点目標	・規範意識の向上 ・基礎学力の充実と学力の伸長

1 スクール・ポリシーの内容

教育方針 （スクール・ポリシー）	入学者の受け入れに関する方針 （アドミッション・ポリシー）	本校では、次のような生徒を積極的に受け入れます。 ・本校の使命や教育方針を実践できる生徒 ・基本的な学力が身に付いており、主体的・探求的に取り組める生徒 ・人権尊重の精神に徹し、他者を認め、社会貢献の意識の高い生徒 ・将来、奈良県内の企業等で建築の業務に従事する意思を有しているもの（専攻科）
	教育課程の編成及び実施に関する方針 （カリキュラム・ポリシー）	本校では、確かな学力、豊かな人間性、たくましい心身を育成するため以下の教育を行います。 ・生徒一人一人の興味・関心、進路選択に応じたカリキュラムを編成します。 ・学力の向上を図り、生徒一人一人の自己実現を目指します。 ・道徳心や公共心を育み、ボランティア活動を推進し、社会の一員として社会に貢献する精神を育てます。 ・基本的な生活習慣を身に付け、規範意識を向上させることにより、正しい判断力を涵養します。 ・部活動への積極的な参加を促し、体力・気力の向上を図ります。 ・専門的な内容をより深く学び、資格等の取得を目指します。（専攻科）
	育成を目指す資質・能力に関する方針 （グラデュエーション・ポリシー）	本校では、卒業（終了（専攻科））までに、以下の資質・能力の育成をめざします。 ・確かな学力や自主的創造的な態度や能力を身に付け、社会に貢献することができる。 ・人権尊重の精神に徹し、規律を重んじ、道徳心や連帯意識を身に付けている。 ・国際理解、情報化、価値観の多様化などの社会の変化に対応できる。

2 奈良県教育振興基本計画（「奈良の学び推進プラン」）が示す各テーマごとの学校教育目標

テーマ	学校の教育活動に関する目標（A）	計画期間における具体的目標（B）	令和5年度末の目標値等（C）	令和5年度末の状況（D）	自己評価（E）	学校関係者評価（F）	改善方法
1. こころと身体を子どもの成長に合わせてはぐくむ	健康教育の充実	心身に関する配慮生徒に対する情報共有2回実施	年3回の実施	3回実施（人教部生徒理解）	達成できた。	朝食の摂取等を含めて、さらに生活習慣の向上に努めてほしい。	現状を維持し生徒の安全を図る。
	食育の推進	朝食摂取率の向上 80%以上目標	朝食摂取率10～20%の向上	朝食摂取率は、1年49%、2年51%、3年48%。年度当初と、ほぼかわらなかった。	達成できていない。		授業や保健便り等を活用して、意識の向上に取り組む。
	運動習慣の定着	運動時間の確保、部活動参加率の向上	1日30分以上運動する生徒80%	男子50% 女子32%	達成できていない。		授業等において、健康を維持する知識や理解を深めるように取り組む。
2. 学ぶ力、考える力、探求する力をはぐくむ	進路実現を意識した基礎的な学力の向上	基礎学力テストの成績（スコア）が向上した生徒が50%以上	基礎学力テストの成績（スコア）が向上した生徒が30%	1年生初回との比較で、1年生の25%、2年生の34%の生徒のスコアが上昇した。	成績が向上した生徒もいるが、診断テストを事後に十分活用することができなかった。	進路実現に向けての取組を進めてもらっている。大学進学等への取組をさらに進めてほしい。	事前・事後の活用もしながら、基礎学力の向上を目指す。
	教職員の授業力・資質向上	各教科の研究授業を実施年1回以上生徒・保護者の授業満足度の向上	アンケートの授業満足度に関する項目でA（そう思う）が50%かつA+B（そう思う+だいたいそう思う）が95%	アンケート結果はA53.7%、A+B96.4%であった。	達成できた。		各教科で授業研究や指導方法・教材の工夫等についての研修を継続的に実施する。
	学校における働き方改革の推進	R4超過勤務時間から10%減	R4超過勤務時間数から5%減	一人あたりの月平均超過勤務時間（平日）： R5 14時間54分 R4 20時間29分	目標の5%は達成できた。		時間の割振や振休の積極的取得、年休の有効活用を呼びかける。
3. 働く意欲と働く力をはぐくむ	インターンシップ等の充実	インターンシップ等の参加率25%以上	インターンシップ等の参加率20%	3年生の約50%が、在学中に1回以上インターンシップ等に参加した。	学科により参加率に差があり、十分に実施できなかった。	インターンシップを含めて、キャリアへの意識を高めている。看護体験等、コロナ以前の形で協力の検討ができる。	長期休業中のインターンシップの案内を行う際、積極的な申し込みを呼びかける。
	キャリア教育の推進	進路選択時のキャリアパスポート活用率50%以上	キャリアパスポート活用率30%	キャリアパスポート活用率は20%程度。	記入させることはできたが、それを進路選択時に十分に活用することはできなかった。		進路選択時に提出書類の作成や面接準備に活用していく。
	キャリア意識・職業意識の高揚	就職応募前見学が応募先決定に有効と感じた生徒が95%以上	就職応募前見学が応募先決定に有効と感じた生徒が90%	応募前職場見学が応募先決定に有効と感じた生徒は、ほぼ100%。	応募前見学が応募先決定に役に立った。		就職希望者には応募前見学を行い、納得した上での受験を進める。
4. 地域と協働して活躍する人を育てる	地域社会に貢献する人材の育成	リーダー研修会の実施年2回 出前授業、体力測定支援の実施	リーダー研修会の実施年1回 出前授業の実施	計画通り実施した。	達成できた。	小学校でのスポーツテストの支援やプログラミング学習の支援はよい行事だった。 同窓会として学校からの支援の要望に応えていきたい。	来年度も学校行事等を調整しながら進めていきたい。
	ボランティア活動の充実	通学路清掃年4回実施 校外美化活動年3回実施	通学路清掃年3回実施 校外美化活動年2回実施	計画通り実施した。	達成できた。		現状を維持しながら活動を進めていく。
	学校運営協議会の推進	年間3回実施	年間3回実施	計画通り3回実施した。	報告だけでなく、「委員の声」をもっと吸い上げたい。		適切なテーマを設定し、意見交流の時間を増やす。

5. 地域で個性が輝く環境と仕組みをつくる	不登校への対策	生徒理解・支援シートの活用 不登校生徒理解のための会議年 3 回実施	生徒理解、支援シートの作成、周知 不登校生徒の状況理解、共通認識	不登校のケース会議を 3 回実施、生徒 理解・支援シートを使用した。不登校生 徒理解のための会議を 3 回実施した。	ケース会議を実施して支援に活かした。定 期的に不登校生徒を調査し、情報共有 は進んだ。	SNSを含めてネット空間での問題が 多いので、啓発等を進めてほしい。	不登校の様々な状況に対 応できるようにする。
	人権教育の推進	人権職員研修年 3 回実施	人権 L H R の報告用紙作成、共通理解	人権職員研修を 5 回実施した。人権 L H R の報告を会議で行った。	全体の研修と学年の研修と報告で理解は 進んだ。		より必要な研修を検討してい く。
	特別支援教育の推進	個別の教育支援計画の作成 ケース会議年 7 回実施	個別の教育支援計画研究 ケース会議年 7 回実施	個別の教育支援計画 1 学年で作成し た。ケース会議を 9 回実施した。	ケース会議を実施し、生徒の支援は進ん だ。		担任の負担が大きいくところがあ るので、支援が必要である。
	いじめ対策	生徒アンケート・二者面談の実施年 2 回実施 いじめ防止対策委員会の実施年 3 回実施	生徒アンケート・二者面談の年 2 回実施 いじめ防止対策委員会の年 3 回実施	実施できているが、回数に達していない。	いじめアンケートに基づいた各委員会等増 やしていきたい。		事前に日程の調整が必要で ある。

3 評価結果の分析、今後の改善方策等

- ・保護者アンケートにおいて「本校に入学させてよかった」という問いに対して、A そう思う 68.3%、B だいたいそう思う 29.6%と回答があり、97.9%の保護者が本校に入学したことに満足している。
- ・中間目標は概ね達成しており、全体的に「は取組を進められた。
- ・「インターンシップの参加」や「出前授業」等、ポストコロナの時流に合わせ、対外的な活動を再開できた。
- ・不登校対策や学力向上に関しては、目先の目標値に執着することなく、「社会的自立」や「学習意欲の向上」を目指し、根幹的な指導を重ねる。